

海外博士講演会 2025

～海外博士号取得者からのメッセージ～

主催／名古屋大学大学院工学研究科有機・高分子化学専攻

定員 50名

参加費 無料

2025年

3月18日 (火) 12:50～18:20

名古屋大学 東山キャンパス ES総合館 ES会議室

主旨説明

12:50～13:00 北山 健司 (生産技術・製品開発ディビジョン 主査)

基調講演

13:00～13:30 「アカデミックキャリアへの留学効果を考える」

名古屋大学 高等教育研究センター 加藤 真紀 先生

招待講演

1 13:30～14:00

「漠然・決断・葛藤・光明そして今」

金沢大学大学院薬学研究科 平野 圭一 先生

2 14:00～14:30

「カナダ留学経験からの学び」

神奈川工科大学工学部 仲亀 誠司 先生

3 14:30～15:00

「テキサスでの留学体験」

九州大学高等研究院 牛丸 理一郎 先生

4 15:30～16:00

「シカゴで学んだこと」

東洋大学大学理工学部 小田 晋 先生

5 16:00～16:30

「MPI(独)での博士課程」

北海道大学ICReDD 辻 信弥 先生

6 16:30～17:00

「MITでの学びと今」

大阪大学大学院基礎工学研究科 新谷 亮 先生

3 と 4 の間 (15:00～15:30) コーヒーブレイク

パネル討論

17:10～18:00 「留学してよかったこと」

登壇者：加藤、平野、仲亀、牛丸
小田、辻、新谷 (敬称略)
北山 (司会)

所感・総括 18:00～18:10 大井 貴史 (名古屋大学 教授)
閉会のあいさつ 18:10～18:20 田中 知成 (京都工芸繊維大学 教授)

お問い合わせ／忍久保 洋 名古屋大学 教授)

E-mail : hshino@chembio.nagoya-u.ac.jp

講演の内容とご略歴

基調講演



名古屋大学
高等教育研究
センター
教授
加藤 真紀

要旨

留学、特に学位の取得を伴う留学はアカデミックキャリアにどのような影響を与えるのだろうか。そしてそれは本当に留学の効果なのだろうか。基幹統計を分析した結果を基に考えます。学生として留学をこれから考えるみなさまの参考になれば幸いです。

ご略歴

1992年3月 東北大学教育学部卒業。2000年11月マサチューセッツ州立大学 教育学研究科 修士課程 修了、2007年9月 東北大学大学院 情報科学研究科 博士課程 修了。博士(情報科学)の学位を取得(安藤朝夫教授)。2008年4月文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席研究官。2021年4月より現職。

招待講演

1

要旨

今年は、私がドイツに行ってみようかと決断してからちょうど20年という記念すべき(?)年です。勢いで生きてきた20年ですが、この講演会にお招きいただいたことをよい機会に、これまで研究と各フェーズ研究とターニングポイントなどを振り返り、お話をさせていただきます。

ご略歴

2006年4月 東京大学大学院薬学系研究科 修士課程 修了 2009年9月 ミュンスター大学 化学薬学部 博士課程 修了 (Frank Glorius教授)。2012年4月 東京大学大学院薬学系研究科 助教。2020年4月 同研究科 特任准教授。2022年12月より現職。



金沢大学大学院
薬学研究科
教授
平野 圭一

2

要旨

バイオリファイナリーの研究を森林資源の利用が盛んなカナダで行い学位を取得しました。企業に在籍しながらの留学と学位取得の経験が、企業の業務や、その後のアカデミアでの研究にどのように活かしているか、お話しします。

ご略歴

1999年3月 京都大学農学研究科修了。同年4月王子製紙(株)入社、2010年11月カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学、森林学部、Ph.D コース 修了 (Jack Saddler教授)。2014年4月神奈川工科大応用バイオ科学科准教授。2023年4月より現職。



神奈川工科大学
工学部
教授
仲亀 誠司

3

要旨

演者は名大修士課程で遷移金属触媒反応開発に従事し、留学を機に研究対象を天然物生合成・酵素化学にシフトした。留学経験を現在の研究との関連も交え紹介する。

ご略歴

2011年3月 名古屋大学理学部化学科卒業。2013年3月 名古屋大学大学院理学研究科 修士課程修了。2019年12月 米国テキサス大学オースティン校化学科 博士課程 修了 Ph.Dの学位を取得 (Hung-wen Liu教授)。2020年1月より現職。



九州大学
高等研究院
助教
牛丸 理一郎

4

要旨

シカゴはアメリカ中西部に位置し、多様な文化が共存する全米第3の都市です。本講演では、この街での留學生活を通じて得た経験や、海外での学位取得がその後の研究人生に与えた影響についてお話しします。

ご略歴

2008年3月 京都大学工学部工業化学科卒業。2014年6月 米国シカゴ大学大学院 化学科 博士課程 修了 Ph.Dの学位を取得 (山本尚教授)。2018年4月関西学院大学大学院理工学研究科助教。2023年4月より現職。



東洋大学
理工学部
准教授
小田 晋

5

要旨

この講演では、ドイツ・マックスプランク石炭研究所で博士号を取得するまでの道のりについて紹介します。また、北大ICReDDでの最新の研究内容についても触れ、それらの経験がどのように関連しているかをお伝えします。

ご略歴

2018年9月 ドイツ・マックスプランク石炭研究所 博士課程修了 Ph.Dの学位を取得 (Benjamin List教授)。2020年1月北海道大学化学反応創成研究拠点(ICReDD)特任助教。2023年4月より現職。



北海道大学
ICReDD
特定准教授
辻 信弥

6

要旨

学位取得後20年余り経過した今、留学に至った経緯、在学中ならびに卒業後の思いやキャリア、留学経験がその後にもたらしたことなどについて、これまでを振り返りながら述べる。学生さんをはじめ、現在の若い世代の方々が将来を考える上で参考になれば幸いです。

ご略歴

1999年3月 京都大学理学部卒業。2003年7月 米国マサチューセッツ工科大学大学院 化学科博士課程修了 (Gregory C. Fu教授)。2003年10月 京都大学大学院理学研究科助手・助教。2012年8月 東京大学大学院工学系研究科准教授。2017年4月より現職。



大阪大学大学院
基礎工学研究科
教授
新谷 亮

交通アクセス

地下鉄名城線「名古屋大学駅」より、3番出口を出て交差点を渡り、徒歩約3分
名古屋大学東山キャンパス (〒464-8601 名古屋市中千種区不老町)